

母島にしか生息しないハジマメグロ



## まだ一度も 行ったことのない東京へ 「小笠原諸島」

東京の南、約1,000kmの海上に位置する亜熱帯の島々、それが小笠原諸島です。映画で注目を集めた硫黄島も小笠原諸島の一部を構成しています。

小笠原諸島は、東端の南鳥島から西端の沖ノ鳥島にかけて大小30あまりの島々が広大な範囲に点在しており、その生成過程において一度も大陸と陸続きになったことがありません。このため、独自に進化を遂げた固有の動植物が多数生息しています。

この6月、小笠原諸島は日本で4番目の世界自然遺産に登録されました。世界自然遺産登録にあたり評価の対象となったのは、その独自の生態系です。「小笠原」と聞いて真っ先に浮かぶのは「南国の青い海」「ホエールウォッチング」など、まさに海そのものだと思います。しかしながら、陸域に目を向けてみると、陸産貝類では94%、維管束植物では36%、昆虫類でも28%もが小笠原にしか生息しない固有種となっています。

この貴重な環境を守り維持していくために、小笠原諸島では法律や制度を守るのももちろんのこと、さまざまな自主ルールが定められています。代表的なものとしては、エリアによって1日の人数制限を設けているところやガイド1人あたりの引率人数に上限が設定されているルートもあります。いずれも自然と共生し、維持していくためには欠かすことのできない取組となっています。

現在、島への交通手段は東京と父島とを結ぶ定期船「おがさわら丸」のみで、航空路はありません。通常週に1便、片道25時間半かかりますので、のんびりと船旅を楽しんでください。交通機関の発達した現代において、これだけの時間を要する移動はまさに「非日常への入り口」というに相応しいかもしれません。標準的な旅行の場合、行きと



1日の人数制限を設けている南鳥（扇池）【写真提供（2点とも）：小笠原村】

帰りの船旅で2日、島での滞在で3泊4日、合計5泊6日が必要です。

海ではダイビングにシュノーケリングはもちろんのこと、イルカと泳ぐドルフィンスイムやホエールウォッチングも体験できます。山ではガイドと一緒に森を歩きながら、数多くの固有種や希少種を観察してみましょう。日が暮れても見所は尽きません。夜の闇の中で光るキノコやおガサワラオオコウモリなども必見です。

父島からさらに50km、ははじ丸に乗って母島を訪ねるのもいいでしょう。世界でも母島にしか生息しないハジマメグロが島に行けば普通に見られます。

東京にありながら外界と隔絶された世界。その大きな自然をぜひ満喫してみてください。

（協力／東京都産業労働局観光部振興課）

